



基調講演

6月29日(金) 14:00~15:00

第1会場(特別会議場)

うつ病性障害の多様性 —成因・症状・対応—

司会：野村 総一郎 防衛医科大学校精神科学講座
演者：山下 格 平松記念病院精神医学研究センター

招待講演

6月30日(土) 13:50~14:50

第1会場(特別会議場)

Problem-Solving Therapy for Depression(うつ病に対する問題解決療法)

司会：坂野 雄二 北海道医療大学心理科学部
演者：Arthur M. Nezu, PhD, ABPP Drexel University, USA

特別講演

6月29日(金) 15:00~16:00

第1会場(特別会議場)

うつ病治療の最前線

司会：上島 国利 国際医療福祉大学医療福祉学部
演者：小山 司 北海道大学大学院医学研究科神経機能学講座精神医学分野

特別講演

6月30日(土) 11:30~12:30

第1会場(特別会議場)

脳神経回路網修復・再生の視点から見たうつ病治療の試み

司会 樋口 輝彦 国立精神・神経センター武蔵病院
演者 齋藤 利和 札幌医科大学医学部神経精神医学講座

シンポジウム I 家族サポートに向けた医療・地域支援のあり方

6月29日(金) 9:20~11:50

第1会場(特別会議場)

オーガナイザー：長谷川 雅美 金沢大学大学院医学系研究科保健学専攻

シンポジスト：

家族への心理教育とうつ病の再発予防

下寺 信次 高知大学医学部神経精神科学教室

地域の関係機関が協働で取り組む自殺予防(心の健康づくり)対策の仕組みづくり

堀井 礼子 北海道苫小牧保健所地域保健推進課

民間 NPO 法人 MDA (うつ・気分障害協会) での取り組み ~地域における家族支援・民間プログラムと行政プログラムの比較~

山口 律子 NPO法人MDA (うつ・気分障害協会) / 日立キャピタル損害保険株式会社

訪問ケアと家族

萱間 真美 聖路加看護大学精神看護学

シンポジウムⅡ 周産期をめぐるうつとその対応

6月30日(土) 9:00~11:30

第1会場(特別会議場)

オーガナイザー：郷久 鉞二 朋佑会札幌産科婦人科
岡野 禎治 三重大学保健管理センター・大学院医学系研究科環境社会講座

シンポジスト：

周産期メンタルヘルスケア症例の臨床統計

郷久 鉞二 朋佑会札幌産科婦人科

産後うつ病女性に対する地域連携の取組みは可能か？—現状と課題—

岡野 禎治 三重大学保健管理センター・大学院医学系研究科環境社会講座

産後女性の心理社会的状態とその支援

丸山 知子 札幌医科大学保健医療学部看護学科

妊娠中に抑うつ状態になり産後速やかに快復した症例

佐野 敬夫 朋佑会札幌産科婦人科

母と子の楽しい触れ合い“7つのポイント” —その理論背景と実践—

南部 春生 朋佑会札幌産科婦人科

周産期におけるうつ症状を持つ母親への心理的支援

伊藤 絵理香 朋佑会札幌産科婦人科

シンポジウムⅢ 職場復帰サポートシステムを考える

6月30日(土) 15:00~17:30

第1会場(特別会議場)

オーガナイザー：樋口 輝彦 国立精神・神経センター武蔵病院

シンポジスト：

うつ病、不安障害のデイケアにおけるリハビリテーション

五十嵐 良雄 医療法人雄仁会メディカルケア虎ノ門

病院での取り組み

秋山 剛 NTT 東日本関東病院 精神神経科

精神保健福祉センターが実践する復職リハビリテーション

菅原 誠 東京都立中部総合精神保健福祉センター

障害者職業センターにおけるリワーク支援

—セルフケアの充実によるウオーミングアップと連続した職場のラインケアに対するアプローチ—

高瀬 健一 独立行政法人高齢・障害者雇用支援機構 宮城障害者職業センター

指定発言：

会社の産業医の立場から

山川 和夫 山川医療企画



レクチャーⅠ

6月29日(金) 9:50~10:50

第3会場(107会議室)

遺伝子—環境相関とうつ病

座長：山脇 成人 広島大学大学院・精神神経医科学
演者：神庭 重信 九州大学大学院医学研究院精神病態医学分野

レクチャーⅡ

6月29日(金) 9:50~10:50

第4会場(108会議室)

非定型うつ病について考える：その病態と治療

座長：久保木 富房 東京大学名誉教授、楽山病院
演者：貝谷 久宣 医療法人和楽会 なごやメンタルクリニック

レクチャーⅢ

6月29日(金) 10:50~11:50

第3会場(107会議室)

がん患者の抑うつ対策

座長：久保 千春 九州大学大学院医学研究院心身医学
演者：内富 庸介 国立がんセンター東病院臨床開発センター精神腫瘍学開発部

レクチャーⅣ

6月29日(金) 10:50~11:50

第4会場(108会議室)

うつ病に対する認知療法：急性期から維持期まで

座長：切池 信夫 大阪市立大学大学院医学研究科神経精神医学
演者：井上 和臣 鳴門教育大学教育臨床講座

レクチャーⅤ

6月29日(金) 17:20~18:20

第1会場(特別会議場)

軽症うつ病とプライマリケア：一般医と専門医とのよりよき連携

座長：井出 雅弘 医療法人明和会札幌明和病院
演者：野村 総一郎 防衛医科大学校精神科学講座

レクチャーⅥ

6月29日(金) 17:20~18:20

第2会場(中ホール)

自殺予防の基礎知識

座長：田辺 等 北海道立精神保健福祉センター
演者：高橋 祥友 防衛医科大学校防衛医学研究センター行動科学研究部門

レクチャーⅦ

6月29日(金) 17:20~18:20

第3会場(107会議室)

気分障害とパーソナリティ —その総合的理解と臨床応用を目指して—

座長：千丈 雅徳 医療法人五稜会病院
演者：坂元 薫 東京女子医科大学医学部神経精神科

レクチャーⅧ

6月29日(金) 17:20~18:20

第4会場(108会議室)

双極Ⅱ型障害への着眼点

座長：坪井 康次 東邦大学心療内科
演者：内海 健 帝京大学医学部精神神経科

レクチャーⅨ

6月30日(土) 15:00~16:00

第3会場(107会議室)

高齢期の抑うつ病の現状とその関連要因について

座長：長谷川 雅美 金沢大学大学院医学系研究科保健学専攻
演者：下仲 順子 文京学院大学人間学部

レクチャーⅩ

6月30日(土) 15:00~16:00

第4会場(108会議室)

仕事とうつ病 —臨床類型と職場復帰—

座長：久村 正也 札幌心身医療研究所
演者：市川 光洋 光洋クリニック・四谷

レクチャーⅪ

6月30日(土) 15:00~16:00

第5・6会場(104・105会議室)

地域におけるうつ病予防

座長：中島 公博 医療法人五稜会病院
演者：大野 裕 慶應義塾大学保健管理センター



ワークショップⅠ

6月30日(土) 9:00~11:00

第2会場(中ホール)

うつ病の夫婦療法

コーディネーター

兼講師：中村 伸一 中村心理療法研究室

ワークショップⅡ

6月30日(土) 9:00~11:00

第3会場(107会議室)

児童・思春期のうつ病とその治療—薬物療法と認知行動療法をめぐって

コーディネーター

兼講師：傳田 健三 北海道大学大学院医学研究科精神医学分野

協力講師：北川 信樹 北海道大学大学院医学研究科精神医学分野

ワークショップⅢ

6月30日(土) 9:00~11:00

第4会場(108会議室)

うつ病の集団認知療法

コーディネーター

兼講師：岡田 佳詠 淑徳大学看護学部

協力講師：田島 美幸 NTT東日本関東病院精神神経科/慶応義塾大学医学部ストレス・マネジメント室

中村 聡美 NTT東日本関東病院精神神経科

曾根原 純子 NTT東日本関東病院精神神経科

沼 初枝 NTT東日本関東病院精神神経科/立正大学心理学部

ワークショップⅣ

6月30日(土) 15:00~17:00

第2会場(中ホール)

うつ病に対する問題解決療法 (PST)

コーディネーター

兼講師：Arthur M. Nezu, PhD, ABPP Drexel University, USA

Christine M. Nezu Drexel University, USA

交流の広場

6月30日(土) 10:00~12:30

第6会場(105会議室)

うつの問題解決・支援

司会：三村 將 昭和大学医学部精神医学教室

森崎 美奈子 帝京平成大学大学院健康情報科学研究科/健康メディカル学部臨床心理学科

ケース1 「上司の十分な理解と、 産業医による認知療法的サポートにより、 復職支援に成功した症例」

事例提供者1

衛藤 理砂 万有製薬株式会社健康管理センター

ケース2 「うつ病で療養をくり返す管理職への復職支援」

事例提供者2

増澤 清美 NTT 東日本首都圏健康管理センタ東京健康管理センター

応募方法：6月29日(金)8:20~受付を開始いたします。総合受付でお申込みください。
先着30名、定員になり次第締め切らせていただきます

参加費：1,000円(コーヒー・お菓子付)

医師、看護師、臨床心理士、ケースワーカーといった医療職や、保健師、カウンセラーといった職場関係者など、さまざまな立場の人々を交えて、うつ病にかかわる復職支援の問題を考えたいと思います。

担当者より具体的な2事例を挙げてもらいますが、むしろそれを話題提供として、日頃困っている問題や、うまくいった経験など、それぞれの立場から自由にディスカッションしていただきたいと思います。

職場復帰にかかわる専門職としてのサポートのあり方を意見交換できるよう、皆様のご参加をお待ちしております。



日本うつ病学会 「うつ病診療」講習会

▶ 6月30日(土) 9:00～13:00 ▶ 第5会場(104会議室)

定員：30名（事前申込制 受付は終了いたしました）

参加費：10,000円（昼食代含む）

企画：日本うつ病学会 診療教育委員会

日本うつ病学会 教育診療委員会は、うつ病臨床のボトムアップのために、講習会を企画しました。

目的と形式：

うつ病診療の標準的な治療とは何かを、3時間、少人数でのグループ形式参加型講習会で、学習することを目的としています。症状の評価、的確な診断、患者・家族への説明、治療法の選択と実践、回復・復帰の準備、保健福祉や職場との連携など・・・うつ病診療のポイントやピット・フォールを専門家と一緒に学ぶ機会です。講師は診療教育委員会委員およびうつ病診療のエキスパートが担当します。

講習会の最後に簡単な確認テストを行い、合格者には診察室等に掲げて恥ずかしくない風格のある受講修了書を発行します。

委員長 平安 良雄

<プログラム予定>

9:00 - 9:05 インTRODクシヨN：研修方法の概略説明

9:05 - 9:15 アンケート記載と回収

9:15 - 9:20 症例1 呈示

9:20 - 9:45 グループワーク：問題点抽出

9:45 - 9:55 ポイント解説：症例の問題点を確認

9:55 - 10:15 関連講義：薬物療法の留意点について

<10:15 - 10:30 休憩>

10:30 - 10:35 症例2 呈示

10:35 - 11:00 問題点抽出：問題点抽出

11:00 - 11:10 ポイント解説：症例の問題点を確認

11:10 - 11:30 関連講義：診断について

11:30 - 11:45 まとめ

11:45 - 12:00 アンケート記載と回収

12:00 - 13:00 食事と懇談

第1回「うつ病診療講習会」の結果を基に、第2回「うつ病診療講習会」も企画する予定です。興味のある方は、また次の機会にご参加くださいますようお願いいたします。



ランチョンセミナー1

6月29日(金) 12:00~13:00

第1会場(特別会議場)

うつ病治療におけるアドヒアランスを考える

座長：神庭 重信 九州大学大学院医学研究院精神病態医学

演者：中村 純 産業医科大学精神医学

共催：グラクソ・スミスクライン株式会社

ランチョンセミナー2

6月29日(金) 12:00~13:00

第2会場(中ホール)

SSRIの光と影—新規抗うつ薬のリスクとベネフィットについて考える—

座長：丹羽 真一 福島県立医科大学医学部神経精神医学講座

演者：田島 治 杏林大学保健学部精神保健学教室

共催：アステラス製薬株式会社・明治製菓株式会社

ランチョンセミナー3

6月30日(土) 12:40~13:40

第1会場(特別会議場)

がん患者の心の反応とその変調への対応

座長：小山 司 北海道大学大学院医学研究科神経機能学講座精神医学分野

演者：内富 庸介 国立がんセンター東病院

共催：旭化成ファーマ株式会社・ヤンセンファーマ株式会社

ランチョンセミナー4

6月30日(土) 12:40~13:40

第2会場(中ホール)

増大する現代型うつ病と一次予防の展望

座長：上島 国利 国際医療福祉大学医療福祉学部

演者：粥川 裕平 名古屋工業大学保健センター/大学院産業戦略工学専攻

共催：ファイザー製薬株式会社

ランチョンセミナー5

6月30日(土) 12:40~13:40

第3会場(107会議室)

うつ診療の新たな潮流—双極スペクトラムとその周辺—

座長：神庭 重信 九州大学大学院医学研究院精神病態医学

演者：坂元 薫 東京女子医科大学医学部神経精神科

共催：協和発酵工業株式会社



市民公開講座 (第7回JCPTD/第4回日本うつ病学会/北海道医療大学 市民公開講座)

7月1日(日) 13:00 ~ 15:00

道新ホール 8階

テーマ：地域でのうつ病への取り組み、サポート

会場 道新ホール 札幌市中央区大通西3丁目 道新ビル大通館 8階

TEL: 011-221-2422 <http://www.doshin-acty.co.jp/doshin/>

司会：小山 司 北海道大学大学院医学研究科精神医学

共催：日本うつ病学会/JCPTD委員会(うつ病の予防・治療委員会)/北海道医療大学

<プログラム>

挨拶 坂野 雄二 北海道医療大学心理科学部/第4回うつ病学会総会会長

講演 1. 「トークショー ～家族・・・心豊かに～」

演者/女優 寿美 花代

JCPTDについて

中根 允文 長崎国際大学人間社会学部/JCPTD委員会代表世話人

講演 2. 「うつ病と自殺の予防—住民が利活用できるもの」

演者 田辺 等 北海道立精神保健福祉センター

講演 3. 「自殺予防への挑戦～自殺率日本一の秋田から、生きる意味を問いつつ～」

演者 稲村 茂 医療法人緑陽会笠松病院

まとめ 野村 総一郎 防衛医科大学校精神科学講座/日本うつ病学会理事長

後援 北海道新聞社、(財)パブリックヘルスリサーチセンター、
(社)日本産業カウンセラー協会、(社)日本産業カウンセラー協会 北海道支部、
社会福祉法人 北海道いのちの電話、北海道(予定)

協賛 塩野義製薬株式会社、日本イーライリリー株式会社

入場料 無料

定員 700席(予定)

参加申込み方法

この市民公開講座は、一般市民の方を対象にしています。

第4回日本うつ病学会総会のプログラムの一つでもあります。一般市民の方を優先し、第4回日本うつ病学会総会参加者の方には恐縮ですが、入場を制限させていただきます。

6月29日(金)8:20～総会会場(札幌コンベンションセンター)総合受付にて市民公開講座参加希望の方、先着100名に参加証(ハガキ)をお渡しいたします。「市民公開講座」受付窓口にお申し出ください。参加受付は先着100名で締切らせていただきますので予めご了承くださいませようお願い申し上げます。

なお、事前の参加申込については、JCPTD(うつ病の予防・治療委員会)のWEBページでご案内しています。ご参照ください。(締切日:6月15日)

http://www.jcptd.jp/CACHE/frameset/index_index.cfm



薬物療法

- P-A-01** スルピリドのプロラクチン分泌に及ぼす用量別検討
貴志 素子 貴志 豊
ゆたかクリニック
- P-A-02** 遷延性うつ病の薬物療法：Mood stabilizerとしてのクロナゼパムの臨床効果予測
森下 茂¹⁾ 有田 清三郎²⁾
1)十条リハビリテーション病院うつ予防センター 2)関西医科大学医学統計学教室
- P-A-03** うつ病を含む耳鼻咽喉科患者に対する塩酸パロキセチンの治療成績
五島 史行 中井 貴美子
日野市立病院耳鼻咽喉科
- P-A-04** 睡眠薬使用による不眠の改善が抑うつ症状に及ぼす影響
駒田 陽子¹⁾ 野村 哲志²⁾ 井上 雄一¹⁾
1)財団法人神経研究所 2)鳥取大学医学部脳神経内科部門
- P-A-05** セルトラリンが有効であった「もの忘れ外来」受診者の臨床像(神経画像を中心とした検討)
奥村 歩
木沢記念病院中部療護センター
- P-A-06** Post-stroke depression(PSD)の認知機能障害に対する抗うつ薬の効果
幸田 るみ子 小城 幸乃 熊田 貴之 太田 晴久 山縣 文 山田 浩樹
高塩 理 吉村 直記 渡邊 壮一郎 大坪 天平 三村 将
昭和大学医学部精神医学教室
- P-A-07** 心療内科におけるうつ病の寛解期処方量に関する検討
端詰 勝敬 久我原 明朗 奥平 祐子 天野 雄一 林 果林 坪井 康次
東邦大学心療内科
- P-A-08** うつ病・うつ状態患者にパロキセチン20mgより投与開始した場合の有効性・問題点
大原 一幸 高長 明律 西井 理恵 慶村 雅世 西川 慎一郎 守田 嘉男
兵庫医科大学精神科神経科学教室

非薬物療法

P-B-01 難治性うつ病における ECT 後の再燃に対する維持 ECT の有効性

須賀 英道 大下 顕 諏訪 太郎
京都大学大学院医学研究科精神医学教室

P-B-02 治療抵抗性うつ病に対する集団認知行動療法の効果—前方視的長期フォローアップ研究から—

松永 美希¹⁾²⁾ 岡本 泰昌¹⁾ 木下 亜紀子¹⁾ 鈴木 伸一³⁾ 山脇 成人¹⁾
1)広島大学大学院医歯薬総合研究科精神神経医学講座 2)吉備国際大学社会福祉学部臨床心理学科
3)広島大学大学院教育学研究科附属心理臨床教育研究センター

P-B-03 日常的な運動習慣がうつ傾向、自律神経活動に及ぼす影響

藤林 真美 森谷 敏夫
京都大学大学院人間・環境学研究科応用生理学研究室

P-B-04 ナラティブアプローチを用いたうつ病者への介入に関する研究

長谷川 雅美¹⁾ 河村 一海¹⁾ 谷本 千恵²⁾ 山田 円香³⁾
1)金沢大学大学院医学系研究科保健学専攻 2)石川県立看護大学看護学部 3)名古屋市立大学病院

P-B-05 職場内における中等度有酸素運動の自律神経活動動態および抑うつ状態への効果についての検討

梅田 陽子¹⁾ 藤林 真美²⁾ 森谷 敏夫²⁾
1)京都大学高等教育研究開発推進機構 2)京都大学大学院人間・環境学研究科

P-B-06 集団うつ病再発予防プログラムにおける効果～質問紙と患者プロフィールによる検討

古川 はるか¹⁾ 津村 麻紀¹⁾ 森田 満子²⁾ 青木 公義¹⁾ 真鍋 貴子²⁾
忽滑谷 和孝²⁾ 笠原 洋勇¹⁾ 中山 和彦²⁾
1)東京慈恵会医科大学附属柏病院精神神経科 2)東京慈恵会医科大学精神医学講座

P-B-07 自己評価の低さを主訴としたうつ病症例に有効であった認知行動療法的アプローチ—表情のコントロール課題と自己強化法の併用—

太田 滋春
医療法人中江病院・北海道医療大学大学院

P-B-08 唾液アミラーゼと大うつ病性障害の関連研究

石飛 佳宣¹⁾ 穂吉 條太郎¹⁾ 水田 直樹¹⁾ 寺尾 岳¹⁾ 後藤 慎二郎¹⁾
松下 裕貴¹⁾ 花田 浩昭¹⁾ 児玉 健介¹⁾ 五十川 浩一²⁾
1)大分大学医学部脳・神経機能統御講座(精神神経医学) 2)ニューヨーク大学神経科学センター



病体・症状・診断・評価を考える

P-C-01 親・配偶者・子を病気で亡くした207人の健康・抑うつ・悲嘆：年齢を調整した続柄差の検討

宮林 幸江¹⁾ 安田 仁²⁾

1)宮城大学看護学部 2)元福島大学院教育学研究科

P-C-02 受診しない人のうつ症状は軽いのか？（その3）－男性のうつ症状と自己解決行動－

山藤 奈穂子¹⁾ 武内 徹²⁾

1)真生会富山病院心療内科 2)矢後病院

P-C-03 うつ病患者の寛解期における記憶機能に関する研究

前嶋 仁¹⁾ 馬場 元¹⁾ 中野 祥行¹⁾ 北島 明佳²⁾ 鈴木 利人¹⁾ 新井 平伊¹⁾

1)順天堂大学医学部精神医学教室 2)元気会横浜病院

P-C-04 不安・抑うつ発作の臨床的特徴

貝谷 久宣¹⁾²⁾ 正木 美奈¹⁾ 宇佐美 英里²⁾ 井上 顕¹⁾³⁾ 横山 知加²⁾³⁾

1)医療法人和楽会なごやメンタルクリニック 2)医療法人和楽会赤坂クリニック心療内科・精神科
3)三重大学大学院医学系研究科神経感覚医学講座精神病態学分野

P-C-05 年齢群別にみたうつ病寛解期における遂行機能

中野 祥行¹⁾ 馬場 元¹⁾ 前嶋 仁¹⁾ 北島 明佳²⁾ 酒井 佳永¹⁾

鈴木 利人¹⁾ 新井 平伊¹⁾

1)順天堂大学精神医学教室 2)元気会横浜病院

P-C-06 不安うつ病尺度の開発

野口 恭子¹⁾²⁾ 福井 至¹⁾²⁾ 横山 知加²⁾ 正木 美奈³⁾ 宇佐美 英里²⁾

貝谷 久宣⁴⁾

1)東京家政大学大学院 2)心療内科・神経科赤坂クリニック 3)なごやメンタルクリニック
4)医療法人和楽会パニック障害研究センター

P-C-07 Layered Voice Analysisは、うつ・不安症状を評価できるか？

太刀川 弘和¹⁾ 根本 清貴²⁾ 橋本 幸紀²⁾ 遠藤 剛²⁾ 芦沢 裕子²⁾

田中 耕平²⁾ 石井 竜介²⁾ 石井 徳恵²⁾ 矢作 千春²⁾ 佐藤 秀行³⁾

堀 正士⁴⁾ 朝田 隆⁴⁾

1)茨城県精神保健福祉センター 2)ウェブ精神医療研究団体Psycholosoft
3)筑波大学大学院人間総合科学研究科 4)筑波大学臨床医学系精神医学

P-C-08 子どもの抑うつに関する現状調査

吉井 千草 吉川 奈都子 生野 照子

神戸女学院大学人間科学部心身医学研究室

P-C-09 脳卒中後うつ病(Post Stroke Depression)と脳卒中後のアパシーは関連性があるか？

佐藤晋爾¹⁾ 山川百合子²⁾ 朝田 隆³⁾

1)筑波記念病院精神科 2)茨城県立医療大学精神科 3)筑波大学臨床医学系精神医学

P-C-10 Ghrelin遺伝子多型と大うつ病性障害の関連研究

秦野 浩司¹⁾ 穂吉 條太郎¹⁾ 中島 圭一¹⁾ 寺尾 岳¹⁾ 後藤 慎二郎¹⁾
松下 裕貴¹⁾ 花田 浩昭¹⁾ 児玉 健介¹⁾ 五十川 浩一²⁾

1)大分大学医学部脳・神経機能統御講座(精神神経医学) 2)ニューヨーク大学神経科学センター

P-C-11 日本におけるうつ病のcost of illness

佐渡 充洋

慶應義塾大学医学部医療政策管理学教室

P-C-12 うつ状態の診断と鑑別 ―脳波検査活用の実例

林 果林¹⁾ 渡部 博之¹⁾ 端詰 勝敬¹⁾ 中野 弘一²⁾ 坪井 康次¹⁾

1)東邦大学医学部心身医学講座 2)東邦大学卒後臨床研修/生涯教育センター

P-C-13 うつ病回復者の「生き方」の転換 ―「状況構成」という視点から―

近田 真美子

北海道医療大学看護福祉学部

P-C-14 うつ病の合併がアトピー性皮膚炎の皮膚症状、経過に与える影響

片岡 葉子 西野 洋 木嶋 晶子 猿丸 朋久 岸田 寛子

大阪府立呼吸器・アレルギー医療センター皮膚科

P-C-15 大うつ病性障害患者における行動量の変化 ―行動ロガーを用いた解析―

田中 伸一郎 中島 亨 池田 暁史 大野 孝浩 鬼頭 伸輔 古賀 良彦

杏林大学医学部精神神経科学教室

P-C-16 武蔵病院うつ病専門外来におけるNIRS計測

―血流体表示を用いた気分障害の時空間的な血液量変化の検討―

野田 隆政¹⁾ 穴見 公隆²⁾ 川崎 真護³⁾ 沢村 香苗¹⁾ 岡本 長久¹⁾

大森 まゆ¹⁾ 佐藤 さやか⁴⁾ 功刀 浩⁵⁾ 斎藤 治¹⁾ 樋口 輝彦

1)国立精神・神経センター武蔵病院 2)高月病院 3)日立メディコ

4)国立精神・神経センター精神保健研究所 5)国立精神・神経センター神経研究所



高齢者のうつ病を考える

P-D-01 認知障害を伴う高齢者うつ病の心理特性—非うつ病例、認知障害を伴わない例との比較検討
吉山 顕次 三浦 利奈 有園 陽子 服部 英幸
国立長寿医療センター精神科

P-D-02 高齢者うつ病の認知・行動的特徴の検討
陳 峻雯¹⁾²⁾ 植木 啓文³⁾ 高井 昭裕⁴⁾ 古川 壽亮²⁾
1)東海学院大学人間関係学部心理学科 2)名古屋市立大学大学院医学研究科精神・認知・行動医学分野
3)岐阜大学医学部附属病院精神神経科 4)医療法人明萌会ウェルネス高井クリニック

P-D-03 老年期うつ病に対するCilostazol-augmented Therapyの効果：7症例の経験から
馬場 元 久保田 由季 鈴木 利人 新井 平伊
順天堂大学医学部精神医学教室

P-D-04 老年期うつ病の寛解期における遂行機能障害
馬場 奏子¹⁾²⁾ 馬場 元¹⁾ 野口 岩秀²⁾ 新井 礼子²⁾ 鈴木 利人¹⁾ 三村 將³⁾
新井 平伊¹⁾
1)順天堂大学医学部精神医学教室(順天堂越谷病院) 2)下館病院 3)昭和大学医学部精神医学教室

P-D-05 抑うつ状態の患者に対する目標設定型外泊訓練の効果
杉本 みほ¹⁾ 中野 真寿美¹⁾ 長田 昌士²⁾
1)広島市立安佐市民病院南4病棟 2)広島市立安佐市民病院精神神経科

P-D-06 高齢者の大うつ病に対するmilnacipran高用量治療の有用性
Jeong Ryeong-Na 大下 隆司 菅原 裕子 馬場 美穂 榎本 あおい
坂元 薫 石郷岡 純
東京女子医科大学医学部精神医学教室

P-D-07 急性期ECTで寛解した中高齢期の難治性うつ病の再燃予測因子
高野 毅久¹⁾ 鈴木 一正²⁾ 栗田 圭一³⁾ 海老名 幸雄¹⁾ 高松 幸生²⁾
松岡 洋夫¹⁾
1)東北大学大学院医学系研究科精神神経学 2)東北大学病院精神科 3)仙台市立病院精神科

自殺予防を考える

- P-E-01** 自殺を抑止するために新聞記事に載せる内容についての実験心理学的検討：仮想の新聞記事を用いて
坂本 真土¹⁾ 奥村 泰之²⁾ 田中 江里子³⁾
1)日本大学文理学部 2)日本大学大学院文学研究科 3)財)精神・神経科学振興財団

- P-E-02** 医学教育における自殺予防教育
河西 千秋¹⁾ 山田 朋樹¹⁾²⁾ 佐藤 玲子¹⁾ 須田 顕¹⁾ 神庭 功¹⁾ 中川 牧子¹⁾
岩本 葉子¹⁾ 加藤 大慈¹⁾ 後藤 英司³⁾ 平安 良雄¹⁾
1)横浜市立大学医学部精神医学教室 2)横浜市立大学附属市民総合医療センター・高度救命救急センター
3)横浜市立大学医学部行動情報医学・医学教育学教室

- P-E-03** 救命救急センター研修医の自殺者・自殺行動に対する知識と理解
須田 顕¹⁾ 山田 朋樹¹⁾³⁾ 佐藤 玲子¹⁾ 中川 牧子¹⁾³⁾ 長谷川花¹⁾²⁾
古野 拓¹⁾²⁾ 平安 良雄¹⁾ 河西 千秋¹⁾
1)横浜市立大学医学部精神医学 2)横浜市立大学附属市民総合医療センター精神医療センター
3)横浜市立大学附属市民総合医療センター高度救命救急センター

- P-E-04** 子どもの抑うつ症状と自殺念慮を予測するリスクファクター：6ヶ月の縦断調査による検討
佐藤 寛¹⁾ 大島 由之²⁾ 新井 邦二郎²⁾
1)宮崎大学教育文化学部・日本学術振興会特別研究員 2)筑波大学人間総合科学研究科

- P-E-05** 職員のメンタルヘルスケアへの取り組み——心療内科医にできること
大中 俊宏
愛媛県立中央病院総合診療科(心療内科医)

- P-E-06** 看護職の抑うつに影響する不合理な信念と自動思考,およびストレスナーの関係
内山 貴美子¹⁾ 坂野 雄二²⁾
1)北海道医療大学大学院心理科学研究科 2)北海道医療大学心理科学部

勤労者のストレスとうつ病

- P-F-01** 勤労者うつ病の配偶者及び子どもに及ぼす影響について——職場と家庭の二面性について
徳永 雄一郎
不知火病院

- P-F-02** 職場のメンタルヘルス対策(EAP)としてのスマイルセラピー
戸並 誠
日本スマイルセラピー協会会長



P-F-03 神奈川県内の公務員の抑うつ度と職場ストレス、職務内容の関連について
池田 英二¹⁾²⁾ 塩崎 一昌¹⁾ 池田 東香¹⁾ 平安 良雄¹⁾
1)横浜市立大学医学部精神医学教室 2)沼津中央病院

P-F-04 うつ病患者の復職に向けたチームアプローチ
大磯 宏昭¹⁾ 原田 健一¹⁾ 本多 美佳子¹⁾ 牧 賢美¹⁾ 山科 正寿²⁾
1)特定医療法人富尾会桜が丘病院 2)熊本障害者職業センター

うつ病患者の看護・家族への対応

P-G-01 気分障害患者に対するスタッフの感情表出
今村 芳博 宮田 雄吾 長岡 和
医療法人カメリア大村共立病院

P-G-02 入院中のうつ病患者・家族への看護介入の効果～FAD(家族機能評価尺度)を用いて～
山田 知子¹⁾ 野村 弘美¹⁾ 中野 真寿美¹⁾ 長田 昌士²⁾
1)広島市立安佐市民病院南4病棟 2)広島市立安佐市民病院精神神経科

P-G-03 うつ病患者が入院生活において“私のことをわかってもらえた”と感じる看護行為に関する研究
上野 恭子¹⁾ 栗原 加代²⁾ 山川 百合子³⁾
1)順天堂大学医療看護学部 2)茨城キリスト教大学看護学部 3)茨城県立医療大学医科学センター

P-G-04 ストレスケア病棟における院内危機介入チームの活動(1) –緊急時スタッフのIES-R得点の変化–
小野寺 美紀 山辺 麻紀 今村 芳博 宮田 雄吾 長岡 和
医療法人カメリア大村共立病院 児童思春期ストレスケア病棟

P-G-05 ストレスケア病棟における院内危機介入チームの活動(2) –アンケート結果による心理的变化と介入意義–
山辺 麻紀 小野寺 美紀 今村 芳博 宮田 雄吾 長岡 和
医療法人カメリア大村共立病院

症例検討

P-H-01 ニコチンパッチを使用して禁煙に成功したものの、その後に「抑うつ状態」を呈してしまった一症例
堀川 直人 松田 愛子 井上 真紀子
富士電機システムズ(株)東京地区健康管理センター

P-H-02 双極Ⅱ型障害の診断後から治療安定化した境界例女性
阿部 又一郎¹⁾²⁾³⁾ 大島 一成²⁾
1)国立精神・神経センター精神保健研究所 2)東京医科歯科大学精神神経科 3)正慶会栗田病院

P-H-03 男性更年期外来を受診した中高年男性のパタニティブルーズ
西村 明子 大橋 一友 石蔵 文信
大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻

P-H-04 大うつ病性障害に合併した睡眠時無呼吸症候群の治療とその経過
— 薬物療法と認知療法、持続陽圧呼吸療法のcombined therapyを行った2症例について
村山 順一 三屋 博宣 高橋 哲也 村田 哲人 和田 有司
福井大学医学部神経科精神科

P-H-05 幼少期に虐待をうけ、育児ストレスを契機にうつ病を発症した一例
真鍋 貴子¹⁾ 森田 満子¹⁾ 津村 麻紀²⁾ 古川 はるこ²⁾ 忽滑谷 和孝¹⁾
笠原 洋勇²⁾ 中山 和彦¹⁾
1)東京慈恵会医科大学附属病院精神神経科 2)東京慈恵会医科大学附属柏病院精神神経科

P-H-06 咽頭部の違和感を初発に転科を繰り返し、咬合異常感症で頭頸部心療科を受診したうつ病の1例
石田 恵 柳葉 智子 木村 浩子 小神 順也 花田 耕治
東京医科歯科大学大学院・医歯学総合研究科・頭頸部心身医学分野

P-H-07 うつ病の回復過程におけるソーシャル・サポート・ネットワークの変化—B氏の場合—
村井 初美
北海道医療大学看護福祉学研究科修士